



2018-2019年度

会長 川岸 芳雄

幹事 仙丸 和幸

奉仕・国際理解で友情の輪



魚津でインターアクト年次大会

富山・石川から19クラブ参加 魚津工業高が開催校

国際ロータリー第2610地区の第41回インターアクト年次大会は8月23日、魚津市の新川文化ホールで開かれた。魚津工業高が開催校を務め、富山・石川の両県で活動する19のインターアクトクラブの高校生が活動報告し、友情の輪を広げた。

富山・石川から19クラブ参加

魚津工業高が開催校

魚津RCは魚津工業高インターアクトクラブのスポンサークラブで、年次大会を例会扱いとし、会員全員が出席登録した。大会には各地のRC会員らも含め約170人が参加式典では魚津工業高の北條靖彦君(3年)が挨拶し、来賓の村椿晃魚津市長、若林啓介同地区ガバナー、川岸芳雄魚津RC会長らが祝辞・歓迎の言葉を述べた。企業研修講師などを務めるM&MSاپライズの松倉美樹代表が「また会いたい」と言われる人間の育て方」と題して記念講演した。

昨年度のオーストラリア研修や各校の活動報告があったほか、活動に貢献した9個人団体を表彰した。



若林ガバナーから表彰される皆さん



「私ってどんな人間?」。記念講演でそんな問いを投げかけた松倉さん。「まずは自分を満たしてあげて」と語った。

●豪雨被災者に役立てて

魚津工業インターアクトクラブは、西日本豪雨の被災者救援に役立ててほしいと、大会会場で募った募金と大会事業費の一部から11万5000円を北日本新聞新川支社を通じて日赤県支部に預託した。

支援の輪

西日本豪雨 3日

▼魚津工業高校インターアクト部が義援金預託。魚津工業高校インターアクト部は、西日本豪雨被災地への義援金11万5000円を北日本新聞新川支社を通じて日赤県支部に預託した。

8月に魚津市の新川文化ホールで開かれた国際ロータリー第2610地区のインターアクト年次大会でホスト校を務め、会場で行った募金活動に寄せられた善意と大会事業費の一部を充てた。同部の北條靖彦会長(3年)が新川支社で大型支社長に義援金を手渡し、「一日も早く被災された方々が元通りの生活



義援金預託を伝える「北日本新聞」(9/4付)



出席報告

- ▷本日出席 18人
- ▷欠席 14人
- ▷出席率 56.66%
- ▷3128回のメークアップなし
- ▷3128回の出席率 60%→60%

一口メモ

インターアクトは「インターナショナル」と「アクション」からなる造語だ。世界に友達を広げながらボランティア精神と国際感覚を養い、行動力を身につけることをロータリーが提唱し、1962年に米国フロリダ州メルボルの高校で初のインターアクトクラブが結成された。現在は159カ国、2万372クラブに広がり、46万8556人が活動する。

魚津工業高には魚津RCがスポンサークラブとなり、1967年にインターアクトクラブが発足。現在は生徒会役員がメンバーとなり、地域イベントの参加や清掃、募金活動などを続けている。

